TYPE OF INDUSTRY

中小企業組合

クローズアップ

地域社会・経済の再興には中小企業の振興が欠かせない。だが、その中小企業は衰退・減少の一途にある。こうした中で今、創業や雇用創出の手段として、街づくり・街おこしや高齢者・障がい者対策などの担い手として、さらには女性活躍の推進母体として注目されているのが「中小企業組合」だ。同組合の女性活躍の事例を見た。（石掛善久）

女性活躍で地域振興

中小・ベンチャー・中小政策

ワーカーと綿密にミーティング（AISOHO）

企業組合とは？

企業組合とは個人事業者や勤労者など4人以上が集まり、それぞれの資本や労働力を持ち寄り、一つの企業体のように活動する組合。行う事業が限定されず自由度が高く、設立費用は自分で手続きすれば0円でOKだ。税務上の優遇措置が適用され、営利を目的にできる組織であるなどさまざまなメリットがある。

4人超で「一企業」
税金・事業の自由度
メリットさまざま

SOHO組織化 育児と仕事両立

AISOHO

経産相から表彰

パソコンとネットワークを活用して、小さな事務所や自宅で仕事をする、いわゆるSOHOで女性を組織化し貴重な就業機会を提供しているのがAISOHO企業組合（山形市城西町）だ。同組合は地域経済の活性化をけん引してきたとして2015年3月に経産大臣から「がんばる中小企業・小規模事業者300社」の1社として表彰されている。

元々は山形県の緊急雇用対策SOHO推進事業が事業化のきっかけ。「子育てしながら社会と関わりたい、働きたいと思って在宅ワークができる組織を目指し、任意団体のキャリ・マミーズをつくり、活動を進めてきた」（菅野美奈子代表理事）。

子育て中の母親が集い、パソコンのスキルアップ講座を開き、互いに教え合い、少しずつ仕事を請け負えるようになっていった。高度で多様なニーズに応えるため04年に法人化、企業組合として「ウエブ制作チーム」「データ入力チーム」「テープ起こしチーム」などをつくりそれぞれの得意技を生かし受託業務をこなしている。

在宅ワーカーは試験と面接を経て合格すれば登録となる。実際の仕事をするには分野ごとにスキルチェックがあり、合格者だけが希望した仕事を受注できる。スキルチェックは月1回開催、現在の登録ワーカーは女性14人、男性3人の合計17人。

継続に重点

年間の事業収入は1500万円から2000万円。「お互いの家庭、子育ての時間を認め合い、助け合いながらの仕事なので、成長より働く環境の維持に重きが置かれる。継続できることはできることがありがたい」と話す。「4人の組合員で設立したが、新しい難しい分野でも仲間とともに考えながら進んでいけることは素晴らしいこと。組合は利益追求ができる中で決算報告書や次年度計画書を中央会を通じて県に提出できるなど初心者にとってはうってつけの法人格」とし、「多くの人に自分らしく働ける場を提供していきたい」と思いを語った。

「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に認定

カフェ→旅行業 領域拡大

でる・そーれ

駅前活性化

企業組合でる・そーれ（青森県五所川原市）はコミュニティー・カフェ事業から菓子製造業、地域限定旅行業と活動領域を広げ、雇用を拡大、事業を軌道に乗せて地元経済に貢献している。

事業開始のきっかけは青森県の地域活性化事業。3テーマのうち駅前活性化事業を担当した渋谷尚子さん（理事長）と、辻悦子さん（理事）、北澤由美子さんの3人は県の事業参画を機に自ら空洞化が進む五所川原駅前の活性化に挑もうと津軽鉄道サポーターズクラブの協力を得て「地域のヒト・モノ・コトをつなぐ、温かくて、明るくて、おいしいカフェ」をコンセプトに10年4月、3人で100万円を出資し「でる・そーれ」をスタートした。

翌年には県中央会の講習会で企業組合制度のメリットを知り、組合を設立。以来、カフェでヒトをつなぐと同時に業容を拡大し、地域食材を活用した「津鉄汁」や「青森シャモロックとまとシチュー」「ストーブ列車石炭クッキー」などを開発し販売、地域限定旅行業の登録をして「津軽半島おもてなしツアー」の企画・実施もしている。

旅行業登録をしたことで出資金も約360万円に拡大。人員もアルバイト含め10人になった。理事長の渋谷さんは「経営は順調。事業収入は年間700万円から800万円。とはいえ、理事の報酬がもう少し安定的にしっかり払えるとよいが」と笑う。

そのためには観光客の取り込みが課題。事業スタート時は新幹線の青森延伸の恩恵を受けたが、「今は事業の多角化などもあって地元関連はよくとも、観光客が減ってきている。新しいイベントなどを考えて観光客を取り戻し地元の活性化を図りたい」と話す。

でる・そーれのメンバー

地元シェフ

日替わりでランチ調理

玉島おかみさん会

食育研修も

地元の飲食店のシェフが日替わりでランチをつくる珍しいワンデイシェフ形態のカフェを運営、地元の産業振興、雇用拡大、市民交流拡大に貢献しているのが、玉島おかみさん会企業組合だ。

倉敷市玉島のおかみさんたちが「自らの商売を通じて地域貢献したい」として任意団体を03年に設立、活動を開始した。「約13年前だったか、高崎で全国おかみさん会があった時、おにぎり屋さんの事例発表があり、その時にワンデイシェフ形態のカフェを思いついた」（根本和子理事長）という。

「空き家利用の先駆け的システム」を活用し補助金に頼らず、自己資金を調達、イベント開いてきたが活動費が重くのしかかった。そこで、地元の市民交流センターにカフェが設置される際、事業実施を打診されたのを機に、利益を出し運転資金を捻出しようと11年末に専従理事6人で企業組合化した。

現在、出資金は100万円、組合員14人で、年間事業収入は16年度で1700万円。「カフェWAON」では玉島の12社のシェフが月に2―3回ランチをつくるほか、江戸時代地元の寺の修行僧が食していた「しのうどん」の復活や、アフタヌーンパーティーの開催などさまざまな取り組みをする。

また、カフェだけでなくレンコン掘りや、果物味比べセミナー、食育研修など幅広く事業展開している。「これからはメンバーの若返りに力を注いでいきたい」と語った。

玉島おかみさん会が運営する「カフェWAON」

日本の未来企業

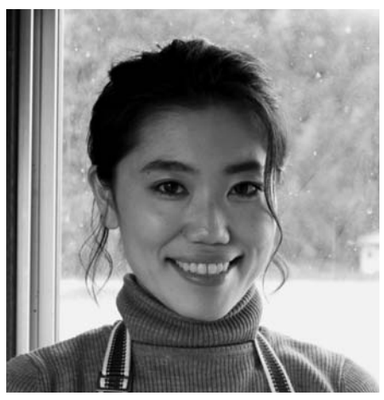
Vol.102

次の百年を創る

&MIKI

整形医療靴 おしゃれ・機能兼備

代表 菅野 ミキ 氏



病気や事故から足に合う靴がなく、歩くことに不自由を感じる人は多い。医療目的の靴に違和感があったり、あか抜けなかったりして「履きたくない」という人たちのために起業した。おしゃれで満足できる履き心地の「整形医療靴」を受注生産する。

兄と協力

代表の菅野ミキはもともとリハビリメークに関心があったが、高校生の時に国家資格の「義肢装具士」を知り専門学校に進学。資格を取得し、京都の義肢装具メーカーに就職した。そこで子ども向けを担当。見た目が気に入らないと装着してくれず、ベルトの色をカラフルにするなど工夫を繰り返した。一方で会社については、自由に作れないもどかしさも感じた。

菅野の兄は靴職人。実家で通常のオーダー靴の工房を開いていた。そこで、兄に「おしゃれな医療靴を作ってほしい」と相談。2014年に工房へ入社した。16年には工房横に、整形医療靴の製造販売に特化した「&MIKI（アンドミキ）」を立ち上げた。

デザイン工夫

40代の女性会社員はリウマチで足の親指が外側に出て、痛みもあり歩きづらかった。だが、「仕事柄、どうしてもパンプスを履かないといけない」。そこで菅野は、甲の一部分だけ面ファスナーを採用。面ファスナーを外しても歩けるデザインにした。一般の整形医療靴のようなゴツゴツした感じはなく、市販のかわいらしいデザインに近づけたことで、女性会社員は喜んでくれたという。

脳梗塞から片方の足首が変形し歩行が困難になった男性には、皮のカッティングを変更して左右の靴の違いが分からないようにした。

顧客は病気で足に問題を抱えている人が多いため、柔らかな皮革、抗菌性のある素材を使うなどの配慮も欠かさない。

機能性とデザインにこだわった整形医療靴

〝救世主〟

整形医療靴は病院の処方箋があれば保険を適用して製作できる。自費だと7万5000―13万円程度。ホームページと口コミで顧客は増え、一足作った人が「次はブーツが欲しい」と再依頼してくる。この1年、さまざまな技術を蓄積できたため、より多くの人の役に立てるようセミオーダータイプの製品化も検討している。

菅野は言う。「市場にあるものと比べて、ビジュアルと機能性を兼ね備えた価値のある靴を作っていきたい」。歩行が困難な人にとって、救世主のような存在だ。

（敬称略、姫路支局長・丸山美和）

企業プロフィル

▽代表＝菅野ミキ氏▽住所＝兵庫県たつの市揖保川町野田248の1▽資本金＝非公表▽設立＝16年（平28）11月

テラス

一瀬さん

社内免許を検討

▽…「熟練者の背中だけを見て育つ時代ではない」と、若手の活躍に期待するのは、一瀬製作所（大阪府門真市）社長の一瀬勇樹さん。実力が勝負のプロ野球選手を引き合いに、若手社員を鼓舞する。

▽…〝チーム〟を率いるリーダーに年齢は関係ない。30代前半の従業員に、生産性向上の基本として重要な「5S活動」のリーダーを任せる。指示出しを通じ、責任感を持たせる狙いだ。

▽…さらなる励みにと「技術の社内免許制度を作ろうか」画策中。公的資格以外に若手が自信を持てる機会をつくる。金物製作のプロとして、次世代のヒットを後押しする。

日刊工業新聞社　話題の新刊図書　〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1　TEL03（5644）7410　http://pub.nikkan.co.jp/
※価格は税込（8%）です。★ご注文は書店またはFAX（小社 出版局販売・管理部 宛）でお申し込み下さい。（送料は無料です）

中小企業がIoTをやってみた
試行錯誤で獲得したIoTの導入ノウハウ
岩本晃一、井上雄介 編著　A5判　2160円　978-4-526-07744-9
IoTは、中小企業の経営者にとって未経験の新しいシステムであり、自社が果たして使いこなせるのか、など不安は尽きない。本書は、岩本氏が主宰し2016年4月から開催してきた研究会で検討してきた中小企業のIoT導入の軌跡と、そこからみえた課題などを紹介する。

図解よくわかる
住宅火災の消火・避難・防火
小林恭一、住宅防火研究会 著　A5判　2052円　978-4-526-07741-8

粉体用語ポケットブック
（社）日本粉体工業技術協会 編　新書判　1944円　978-4-526-07743-2

おもしろサイエンス
小麦粉の科学
大楠秀樹 著　A5判　1728円　978-4-526-07749-4

UX ユーザーエクスペリエンス
虎の巻
ユーザー満足度を向上する設計開発テクニック
坂東大輔 著　A5判　2160円　978-4-526-07742-5

大人が読みたい
ニュートンの話
万有引力の法則の「完成」はリンゴが落ちて22年後だった!?
石川憲一 著　四六判　1296円　978-4-526-07751-7

図解！製造業の管理会計入門
吉川武文 著、王子経営研究会 編著　A5判　2052円　978-4-526-07746-3

未来にはばたく！
兵庫の個性派企業103社
モノづくり県が誇るオンリーワン企業
日刊工業新聞特別取材班 編　四六判　2160円　978-4-526-07745-6

金を掛けずに知恵を出す
からくり改善事例集Part3
公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 編　B5判　2484円　978-4-526-07748-7

◆好評発売中◆
俯瞰図から見える
IoTで激変する日本型製造業ビジネスモデル
大野 治 著　A5判　2160円　978-4-526-07638-1　7刷
続 **メカ屋のための脳科学入門**
【記憶・学習／意識 編】
高橋宏知 著　A5判　2376円　978-4-526-07725-8　2刷
メカ屋のための脳科学入門
―脳をリバースエンジニアリングする―
高橋宏知 著　A5判　2376円　978-4-526-07536-0　9刷

★FAXでお申込みの際は、（拡大）コピーされたものをご送信下さい。

ご住所 〒 TEL FAX			
御社名 部署名		お名前	
ご注文の書名	冊数	ご注文の書名	冊数

FAX 03（5644）7400：日刊工業新聞社　出版局 販売・管理部